

Advanced Level<テストアナリスト> 試験説明会



2015/11/6

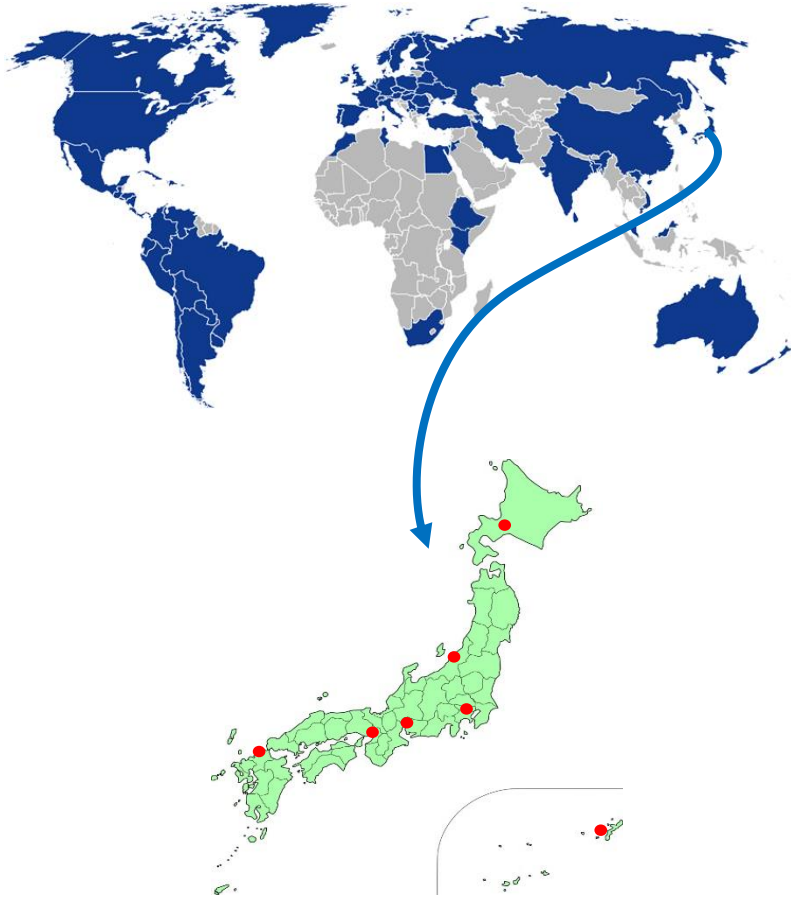
JSTQB 技術委員会

agenda

- JSTQBの活動と資格試験の説明
- 3つアドバンス試験の構成とそれぞれの目的
- アドバンス試験 TAの概説（シラバスより）
- 試験についてのご連絡
- 質疑応答

JSTQBの活動と資格試験の説明

What's JSTQB (ISTQB)



ISTQB

「Certifying Software Testers Worldwide」

Facts & Figures (data as of September 2013)

320,000 Certifications issued

over 12,000 new Certificates per quarter

47 Member Boards, 70 countries directly covered by Member Boards
more than 180 Accredited Training Providers

World-Wide Coverage ensured by Global Exam Providers

Introduction to ISTQB® <http://www.istqb.org/introduction-to-istqb.html>

JSTQB

2005年にISTQBに加盟
Foundation Level

受験者16854名/9000名合格者
(2006年～2014年1月時点)

Advanced Level (Test Manager)

受験者744名/合格者278名
(2010年～2014年1月時点)



JSTQBの主な活動

New!!

□ 資格試験活動 (CTFL、CTAL(TM)、CTAL(TA))

□ 認定活動 (accreditation)

✓ 公認書籍

■ 出版社 翔泳社様

「ソフトウェアテスト教科書 JSTQB Foundation」第3版

✓ 公認研修コース

■ 株式会社 豆蔵様

JSTQB認定テスト技術者-Foundation Levelトレーニング

■ 一般財団法人 日本科学技術連盟様

JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者-Foundation Levelトレーニングコース

□ ISTQBパートナープログラム認定



New!!

□ ISTQB/National Board対応

■ 年3回GA(国際会議)出席/委員派遣

□ 各種プロモーション活動

■ シラバス説明会、カンファレンス(2010‘)など

ISTQB/JSTQBの認定技術者

グローバル(ISTQB)では、

100か国で約40万人の認定者

日本(JSTQB)でも、

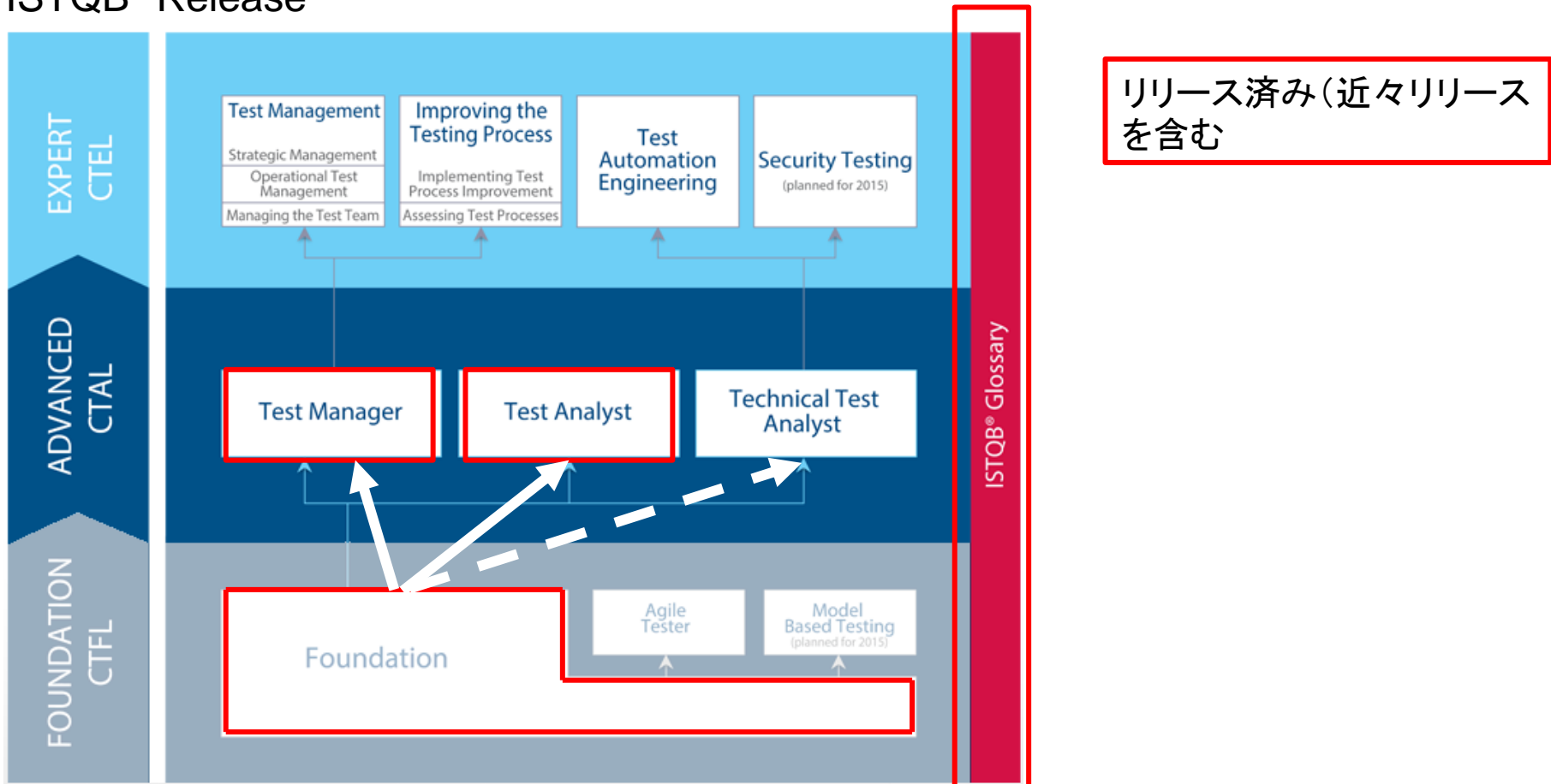
国内で認定者が1万人を突破

JSTQBのテスト技術者資格は、ISTQBを通じて加盟組織間で**相互認証される世界的資格**です！！

3つアドバンス試験の構成とそれぞれの目的

新シラバス テストアナリスト(TA)のリリースについて

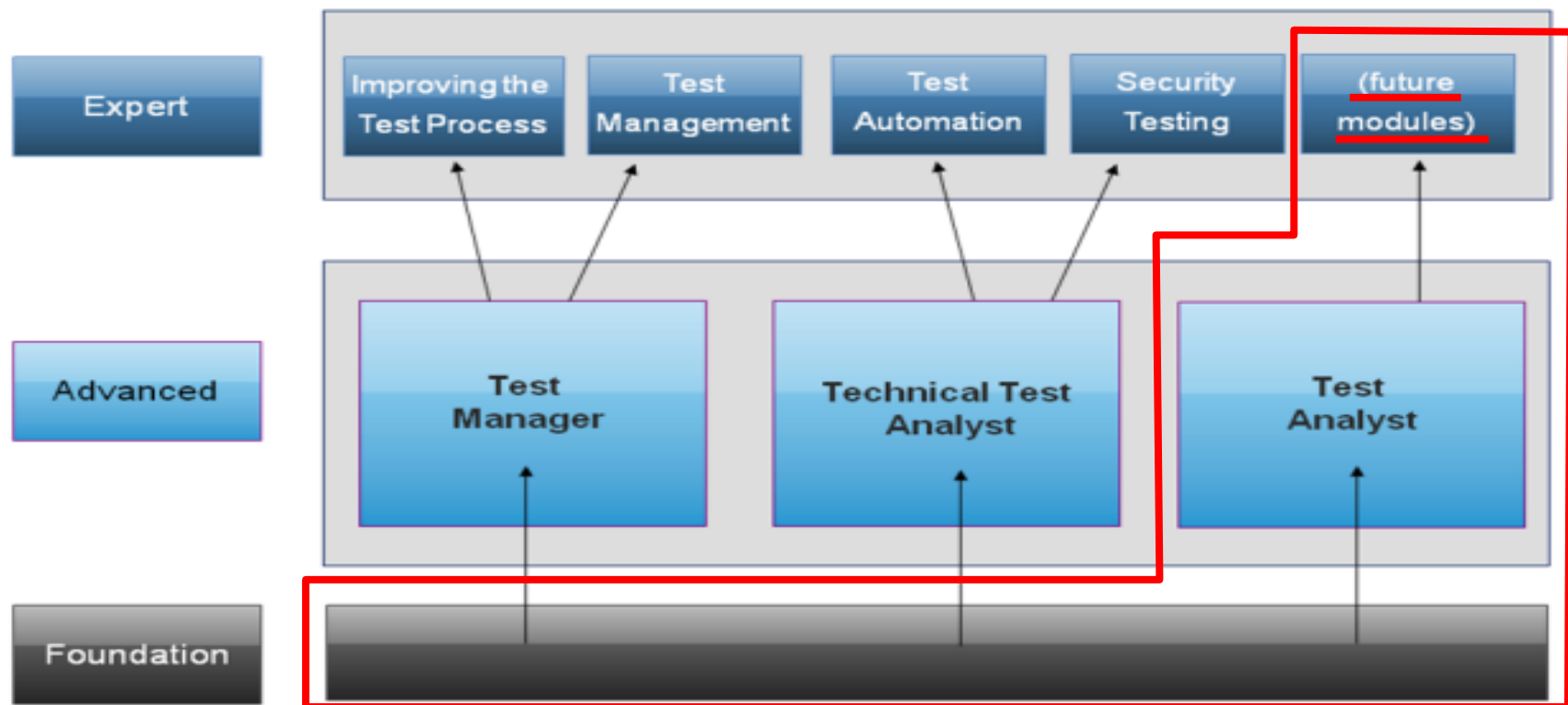
ISTQB Release



リリース済み(近々リリースを含む)

テストアナリスト(TA)とは

□ TAの役割(他のCTALとの比較、キャリアステージ)



ISTQBテスト技術者資格制度 Advanced Level シラバス 日本語版 概要 Version 2012.J01
http://jstqb.jp/dl/JSTQB-Syllabus.Advanced_Overview_Version2012.J01.pdf

© Japan Software Testing Qualifications Board

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

付録B - 学習している知識の目的と認知レベル

本シラバスに当てはまるものとして、以下の学習の目的が定義されている。学習の目的に従ってシラバスのそれぞれの課題を試験する。

レベル1: 記憶レベル(K1)

用語または概念を認識し、記憶して、想起することができる。

レベル2: 理解レベル(K2)

課題に関連する記述について理由または説明を選択することができ、テスト概念、テスト手順(タスクの順番の説明)に関して要約、比較、分類、類別することができ、テスト概念に関して例を挙げることができる。

レベル3: 適用レベル(K3)

概念または技法を正しく選択することができ、それを特定の事例に適用することができる。

レベル4: 分析レベル(K4)

手順または技術に関連する情報を分類し、理解しやすくするため各部分に分割し構成することができる。同時に事実と推論を区別することができる。典型的な適用例として、問題を解決するためやタスクを実行するために、ドキュメント、ソフトウェア、プロジェクトの状態を分析し、適した活動を提案できることが該当する。

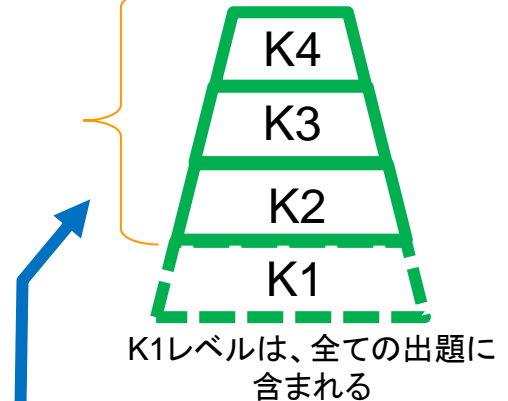
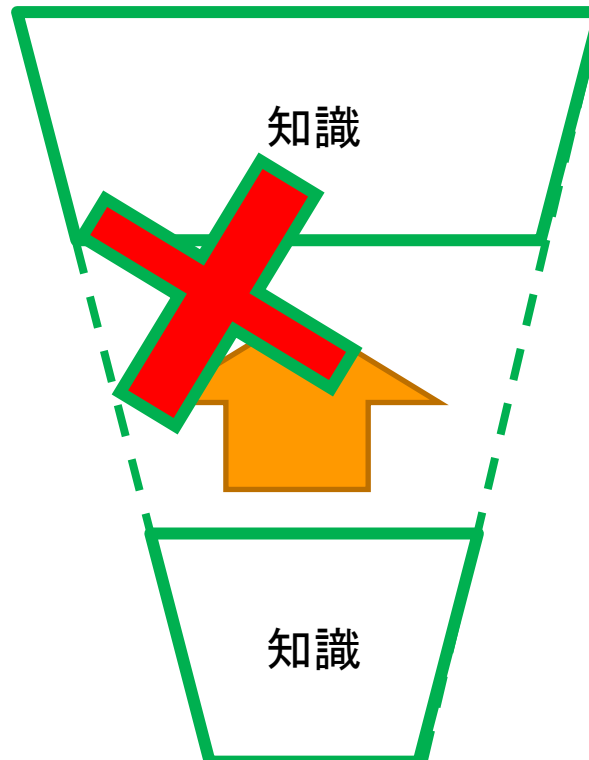
テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

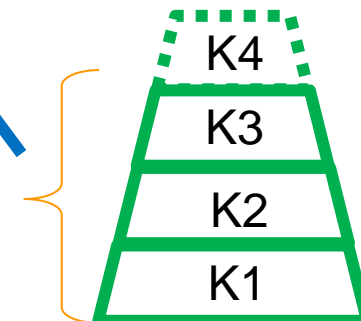
Advanced Levelでは、用語や概念を問う出題はされない。つまり、シラバスを暗記するだけではダメ。

単に知識領域が増えている
だけじゃない。

ナレッジレベルの
範囲と構成が変わっている。



認知レベルが異なる



テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

0.3 試験のための学習の目的

学習の目的はビジネス成果を支援し、Advanced Levelテストアナリスト認定を取得するための**試験問題作成**を行うために使用する。

基本的に本シラバスの**すべての箇所はK1レベルで試験対象**となる。つまり、受験志願者は、用語や概念について認識し、記憶し、想起することになる。

このため、関連する章の最初には、**K2、K3、K4レベルの学習の目的のみ**を記載する。

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

レベル1: 記憶レベル(K1)

用語または概念を認識し、記憶して、想起することができる。

(用語や概念の定義が問われる)

キーワード: 記憶(remember)、検索(retrieve)、想起(recall)、認識(recognize)、知識(know)

例

「故障」の定義を次のように認識できる。

- ・「エンドユーザまたは他の関係者にサービスを引き渡しできないこと。」
- ・「コンポーネントまたはシステムに期待する出力、サービス、または最終結果が異なっていること。」

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

レベル1: 記憶レベル(K1) – 参考

テスト技術者資格制度 Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

Page 7 / 18

1.3 学習の目的

基本的に、Foundation LevelシラバスおよびAdvanced Levelシラバスのすべての資格種別では、K1(記憶)レベルの知識が試験対象となる。Foundation LevelおよびAdvanced Levelシラバスの各資格種別で記述している用語および概念を認識し、記憶して、想起することができるかを試験する。

K2(理解)レベル、K3(適用)レベル、K4(分析)レベルでの学習の目的は、Advanced Levelシラバスの資格種別ごとに記載している。

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

レベル2: 理解レベル(K2)

課題に関連する記述について理由または説明を選択することができ、テスト概念、テスト手順(タスクの順番の説明)に関して要約、比較、分類、類別することができ、テスト概念に関して例を挙げることができる。

キーワード: 要約(summarize)、一般化(generalize)、抽象(abstract)、
分類(classify)、比較(compare)、配置(map)、対照(contrast)、例示(exemplify)、
解釈(interpret)、変換(translate)、表現(represent)、推察(infer)、
結論(conclude)、類別(categorize)、構造モデル(construct models)

例

できるだけ早くテストを設計しなければならない理由を説明することができる。

- ・欠陥除去をより低コストで行うため。
- ・重要な欠陥をより早く見つけるため。

統合テストとシステムテストの類似点と相違点を説明することができる。

- ・類似点: 複数のコンポーネントをテストし、非機能面をテストする。
- ・相違点: 統合テストではインターフェースと相互作用に着目し、システムテストでは、システム全体 (例えばエンドツーエンド処理) に着目する。

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

レベル3: 適用レベル(K3)

概念または技法を正しく選択することができ、それを特定の事例に適用することができる。

キーワード: 実装(implement)、実行(execute)、使用(use)、
手順の実施(follow a procedure)、手順の適用(apply procedure)

例

- ・有効/無効に分ける境界値を見分けることができる。
- ・全ての遷移をカバーするため、特定の状態遷移図からテストケースを選択する。

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

レベル4:分析レベル(K4)

手順または技術に関連する情報を分類し、理解しやすくするため各部分に分割し構成することができる。同時に事実と推論を区別することができる。典型的な適用例として、問題を解決するためやタスクを実行するために、ドキュメント、ソフトウェア、プロジェクトの状態を分析し、適した活動を提案できることが該当する。

キーワード:分析(analyze)、体系(organize)、一貫性の発見(find coherence)、統合(integrate)、概要(outline)、解析(parse)、構造(structure)、属性(attribute)、分解(deconstruct)、区別(differentiate)、選別(discriminate)、識別(distinguish)、集中(focus)、選択(select)

例

- ・プロダクトのリスクを分析し、予防および軽減活動を提案する。
- ・インシデントレポートのどの部分が事実でどの部分が結果からの推察かを判断する。

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

(例)テストアナリストでの同値分割法の取り扱い

3. テスト技法 – 825分..	25
3.1 イントロダクション ...	26
3.2 仕様ベースの技法 .	26
3.2.1 同値分割法	26
3.2.2 境界値分析	27

3.2.1 同値分割法

同値分割法(EP)は、入力、出力、内部値、および時間関連の値の処理を効率的にテストする場合に必要なテストケースの数を少なくするために使用する。同じ方法で処理される値のセットとして作成される同値クラス(同値分割とも呼ばれる)を作成するために分割を使用する。同値クラスから1つの代表値を選択することにより、同じ同値クラス内のすべてのアイテムに対するカバレッジとみなす。

適用

この技法は、すべてのテストレベルで適用でき、テストすべき値セットのすべてのメンバが同じ方法で処理されることが期待され、アプリケーションにより使用される値セットが相互作用しない場合に適用している。値セットの選択は、有効同値クラスおよび無効同値クラス(テスト対象のソフトウェアに対して無効であると見なされるべき値

テスト技術者資格制度

Advanced Levelシラバス 日本語版 概要 (Version 2012.J01)

(例) テストマネージャでの同値分割法の取り扱い

2.3.1.3 リスク軽減

リスクベースドテストは、品質リスク分析(プロダクト品質リスクの識別と評価)で始まる。この分析が、マスターテスト計画およびその他のテスト計画の基礎になる。計画での指定に従って、リスクをカバーするように、テストを計画、実装、および実行する。テストの開発と実行に伴う工数は、リスクのレベルに比例する。つまり、リスクが高いと、より精緻なテスト技法(ペアワイズテストなど)を使用し、一方、リスクが低いと、あまり精緻でない**テスト技法(同値分割法)**やタイムボックスを使った探索的テストなど)を使用する。さらに、テストの開発および実行の優先度は、リスクのレベルに基づく。

2.4.2 テスト戦略

テスト戦略は、組織の一般的なテスト方法を記述している。プロダクトおよびプロジェクトのリスクマネ……

- ・分析的戦略(リスクベースドテストなど)。…
- ・モデルベースド戦略(運用プロファイルなど)。…

……

・コンサルテーションベースの戦略(ユーザ主導のテストなど)。テストチームは一人以上の主なステークホルダの入力に依存して、カバーするテスト条件を決定する。たとえば、Webベースアプリケーションのアウトソース互換性テストでは、企業はアウトソーステストサービスプロバイダに、評価するアプリケーションの優先度付けしたリストを提供する。このリストには、ブラウザバージョン、マルウェア対策ソフトウェア、オペレーティングシステム、接続の種類、およびその他の構成オプションを含む。テストサービスプロバイダはペアワイズテスト(優先度が高い場合)、**同値分割法(優先度が低い場合)などの技法を使用して**、テストを生成する。

- ・回帰的テスト戦略(広範囲の……

テストマネージャ(TM)のビジネス成果

- TM1** **テスト実施組織のために設定された使命、目標およびテストプロセスを実装することによってテストプロジェクトをマネジメントする。**
- TM2 リスク特定およびリスク分析をセッションとして編成し、これらのセッションをリードし、各セッションの結果をテスト活動の見積り、計画、モニタリング、コントロールのために活用する。
- TM3 組織のポリシーおよびテスト戦略と一貫性のあるテスト計画を策定し実装する。
- TM4 テスト活動を継続的にモニタリングしコントロールして、プロジェクト目標を達成する。
- TM5 テスト状況を適時、評価し、プロジェクトステークホルダへ報告する。
- TM6 テストチーム内のスキルおよびリソースのギャップを特定して、適切な人材調達に参画する。
- TM7 テストチーム内の必要なスキルの開発を特定し計画する。
- TM8 想定されるコストとメリットの概要を説明し、テスト活動のためのビジネスケースを提案する。
- TM9 テストチーム内および他のプロジェクトステークホルダとのコミュニケーションを体系化し確立する。
- TM10 プロセス改善の取り組みに参画し、この取り組みを主導する。

テストアナリスト(TA)のビジネス成果

- TA1** **使用中のソフトウェア開発ライフサイクルに基づいて、適切なテスト活動を実施する。**
- TA2 リスク分析によって提供された情報に基づいて、テスト活動の的確な優先順位付けを行う。
- TA3 適切なテスト技法を選択し適用する。定義されたカバレッジ基準に基づいて、テストが適切なコンフィデンスレベル(確信度合い)を提供することを確保する。
- TA4 テスト活動に関連する文書化の適切な度合いを提供する。
- TA5 実行する機能テストの適切なテストタイプを決定する。
- TA6 対象プロジェクトの使用性テストに関する責任を負う。
- TA7 作業プロダクト内の代表的な誤りに関する知識を適用して、ステークホルダとの公式および非公式のレビューに効果的に参画する。
- TA8 欠陥の分類体系を設計し、実装する。
- TA9 効率的なテストプロセスを支援するツールを適用する。

テクニカルテストアナリスト(TTA)のビジネス成果

- TTA1** ソフトウェアシステムの性能、セキュリティ、信頼性、移植性、保守性に関連付けられる代表的なリスクを認識し、分類する。
- TTA2 性能、セキュリティ、信頼性、移植性、保守性のそれぞれのリスクを軽減するためのテストの計画、設計および実行を具体化したテスト計画を策定する。
- TTA3 適切な構造テスト設計技法を選択し適用する。コードカバレッジおよび設計カバレッジに基づいて、テストが適切なコンフィデンスレベル(確信度合い)を提供することを確保する。
- TTA4 コードおよびアーキテクチャ内の代表的な間違いに関する知識を、開発者およびソフトウェアアーキテクトとのテクニカルレビューに参加することで効果的に適用する。
- TTA5 コードおよびソフトウェアアーキテクチャ内のリスクを認識しテスト計画要素を作成して、動的解析を通してこれらのリスクを軽減する。
- TTA6 静的解析を適用することで、コードのセキュリティ、保守性および試験性への改善を提案する。
- TTA7 特定の種類のテスト自動化を導入することから想定されるコストおよびメリットを概説する。
- TTA8 テクニカルなテストタスクを自動化するために適切なツールを選択する。
- TTA9 テスト自動化の適用における技術的な概念や課題を理解する。

アドバンス試験 TAの概説（シラバスより）

0. 本シラバスの紹介

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. テストプロセス | - 300分 |
| 2. テストマネジメント: テストアナリストの責任 | - 90分 |
| 3. テスト技法 | - 825分 |
| 4. ソフトウェア品質特性のテスト | - 120分 |
| 5. レビュー | - 165分 |
| 6. 欠陥マネジメント | - 120分 |
| 7. テストツール | - 45分 |
| 8. 参考文献 | |
| 9. 索引 | |

この部分の
・目次構成
・用語
・学習の目的
を紹介します。

(TA)テストプロセス

～新シラバスより～

□ テストプロセス

- 1.1 イントロダクション
- 1.2 ソフトウェア開発ライフサイクルにおけるテスト
- 1.3 テストの計画作業、モニタリング、およびコントロール
 - 1.3.1 テスト計画作業
 - 1.3.2 テストのモニタリングとコントロール
- 1.4 テスト分析
- 1.5 テスト設計
 - 1.5.1 具体的テストケースと論理的テストケース
 - 1.5.2 テストケースの作成
- 1.6 テスト実装
- 1.7 テスト実行
- 1.8 終了基準の評価とレポート
- 1.9 テスト終了作業

□ 用語

具体的テストケース、終了基準、高位レベルテストケース、論理的テストケース、低位レベルテストケース、テストコントロール、テスト設計、テスト実行、テスト実装、テスト計画作業

□ 学習の目的

1.2 ソフトウェア開発ライフサイクルにおけるテスト

(K2) 対応するライフサイクルモデルに応じて、テストアナリストが関与するタイミングとその関わり方がどのように異なるのか、またその理由を説明する。

1.3 テストの計画作業、モニタリング、およびコントロール

(K2) テストの計画およびコントロールを支援する場合に、テストアナリストが実行する活動を要約する。

1.4 テスト分析

(K4) プロジェクト概要やライフサイクルモデルなどの特定のシナリオを分析して、分析フェーズおよび設計フェーズでのテストアナリストの該当するタスクを決定する。

1.5 テスト設計

(K2) ステークホルダがテスト条件を理解する必要がある理由を説明する。

(続き)

(K4) プロジェクトシナリオを分析して、使用するのに最も適切な低位レベル（具体的）および高位レベル（論理的）のテストケースを決定する。

1.6 テスト実装

(K2) テスト分析およびテスト設計にとっての典型的な終了基準、およびそれらの基準を満たすことがテスト実装の作業にどのように影響するかを説明する。

1.7 テスト実行

(K3) 特定の状況で、テスト実行時に行うべき手順および考慮事項の決定を行う。

1.8 終了基準の評価とレポート

(K2) テストケースの実行状態に関する正確な情報が重要である理由を説明する。

1.9 テスト終了作業

(K2) テスト終了作業時にテストアナリストが提供する必要のある成果物の例を示す。

(TA)テストマネジメント：テストアナリストの責任～新シラバスより～

□ テストマネジメント：テストアナリストの責任

2.1 イントロダクション

2.2 テストの進捗モニタリングおよびコントロール

2.3 分散テスト、アウトソーステスト、およびインソーステスト

2.4 リスクベースドテストにおけるテストアナリストのタスク

2.4.1 概要

2.4.2 リスク識別

2.4.3 リスクアセスメント

2.4.4 リスク軽減

□ 用語

プロダクトリスク、リスク分析、リスク識別、リスクレベル、リスクマネジメント、リスク軽減、リスクベースドテスト、テストモニタリング、テスト戦略

□ 学習の目的

2.2 テストの進捗モニタリングおよびコントロール

(K2) プロジェクトの適切なモニタリングおよびコントロールを可能にするために、テスト時に追跡する必要がある情報の種類を説明する。

2.3 分散テスト、アウトソーステスト、およびインソーステスト

(K2) 24時間テスト環境でシフト作業する場合の優れたコミュニケーション実践の例を提供する。

2.4 リスクベースドテストにおけるテストアナリストのタスク

(K3) 特定のプロジェクト状況で、リスク識別に参加し、リスクアセスメントを実行し、適切なリスク軽減を提案する。

(TA)テスト技法

～新シラバスより～

□ テスト技法

3.1 イントロダクション

3.2 仕様ベースの技法

3.2.1 同値分割法

3.2.2 境界値分析

3.2.3 デシジョンテーブル

3.2.4 原因結果グラフ法

3.2.5 状態遷移テスト

3.2.6 組み合わせテスト技法

3.2.7 ユースケーステスト

3.2.8 ユーザストーリーテスト

3.2.9 ドメイン分析

3.2.10 技法の組み合わせ

3.3 欠陥ベースの技法

3.3.1 欠陥ベースの技法の使用

3.3.2 欠陥分類法

3.4 経験ベースの技法

3.4.1 エラー推測

3.4.2 チェックリストベースドテスト

3.4.3 探索的テスト

3.4.4 最善の技法の適用

□ 用語

境界値分析(BVA)、原因結果グラフ法、チェックリストベースドテスト、クラシフィケーションツリー法、組み合わせテスト、デシジョンテーブルテスト、欠陥分類法、欠陥ベースの技法、ドメイン分析、エラー推測、同値分割法、経験ベースの技法、探索的テスト、直交表、直交表テスト、ペアワイズテスト、要件ベースドテスト、仕様ベースの技法、状態遷移テスト、テストチャータ、ユースケーステスト、ユーザストーリーテスト

(続き)

□ 学習の目的

3.2 仕様ベースの技法

(K2) 原因結果グラフの使用方法を説明する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、同値分割テスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、境界値分析テスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、デシジョンテーブルテスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、状態遷移テスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、ペアワイズテスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、クラシフィケーションツリーテスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、ユースケーステスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K2) アジャイルプロジェクトでテストをガイドするためにユーザストーリーを使用する方法を説明する。

(K3) 定義されたレベルのカバレッジを達成するために、ドメイン分析テスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

(K4) 発見される可能性のある欠陥の種類を判別し、適切な仕様ベースの技法を選択するために、システムまたはその要求仕様を分析する。

(続き)

3.3 欠陥ベースの技法

(K2) 欠陥ベースの技法の適用方法と、使用方法における仕様ベースの技法との違いを説明する。

(K4) 優れた分類法の基準を使用して、特定の状況での適用性に関して、特定の欠陥分類法を分析する。

3.4 経験ベースの技法

(K2) 経験ベースの技法の原則と、仕様ベースおよび欠陥ベースの技法との比較での長所と短所を説明する。

(K3) 特定のシナリオに対して、探索的テストを指定し、結果がレポートされる方法を説明する。

(K4) 特定のプロジェクト状況に対して、特定の目標を達成するために仕様ベース、欠陥ベース、または経験ベースの技法のどれを適用するかを決定する。

□ ソフトウェア品質特性のテスト

4.1 イントロダクション

4.2 ビジネスドメインテストの品質特性

4.2.1 正確性テスト

4.2.2 合目的性テスト

4.2.3 相互運用性テスト

4.2.4 使用性テスト

4.2.5 アクセシビリティテスト

□ 用語

アクセシビリティテスト、正確性テスト、魅力性、ヒューリスティック評価、相互運用性テスト、習得性、運用性、合目的性テスト、SUMI、理解性、使用性テスト、WAMMI

□ 学習の目的

4.2 ビジネスドメインテストの品質特性

(K2) 正確性、合目的性、相互運用性、および標準適合性の特性をテストする場合に、どのテスト技法が適切であるかを、例を挙げて説明する。

(K2) 正確性、合目的性、および相互運用性の特性に関して、ターゲットにする必要のある典型的欠陥を定義する。

(K2) 正確性、合目的性、および相互運用性の特性に関して、これらの特性を、ライフサイクル内でテストするタイミングを定義する。

(K4) 特定のプロジェクトの内容に関して、使用性要件の実装とユーザ期待の達成の両方を検証および確認するのに適している方式を概説する。

□ レビュー

5.1 イントロダクション

5.2 レビューでのチェックリストの使用

□ 用語

なし

□ 学習の目的

5.1 イントロダクション

(K2) テストアナリストにとって、レビューの準備が重要である理由を説明する。

5.2 レビューでのチェックリストの使用

(K4) シラバスが提供するチェックリスト情報に従って、ユースケースまたはユーザインターフェースを解析し、問題を識別する。

(K4) シラバスが提供するチェックリスト情報に従って、要求仕様またはユーザストーリーを解析し、問題を識別する。

□ 欠陥マネジメント

- 6.1 イントロダクション
- 6.2 欠陥を検出するタイミング
- 6.3 欠陥レポートフィールド
- 6.4 欠陥の分類
- 6.5 根本原因分析

□ 用語

欠陥分類法、フェーズ内阻止、根本原因分析

□ 学習の目的

6.2 欠陥を検出するタイミング

(K2) フェーズ内阻止がコストを削減する仕組みを説明する。

6.3 欠陥レポートフィールド

(K2) 非機能欠陥を文書化する場合に必要な可能性のある情報を説明する。

6.4 欠陥の分類

(K4) 特定の欠陥の分類情報を識別、収集、および記録する。

6.5 根本原因分析

(K2) 根本原因分析の目的を説明する。

(TA)テストツール

～新シラバスより～

□ テストツール

7.1 イントロダクション

7.2 テストツールおよび自動化

7.2.1 テスト設計ツール

7.2.2 テストデータ準備ツール

7.2.3 テスト自動実行ツール

□ 用語

キーワード駆動テスト、テストデータ準備ツール、テスト設計ツール、テスト実行ツール

□ 学習の目的

7.2 テストツールおよび自動化

(K2) テストデータ準備ツール、テスト設計ツール、およびテスト実行ツールを使用する利点を説明する。

(K2) キーワード駆動自動化でのテストアナリストの役割を説明する。

(K2) 自動化したテスト実行が故障した場合のトラブルシューティングの手順を説明する。

試験についてのご連絡

試験についてのご連絡

■ 出題数、試験時間について（2015/11/6 現在）
試験に関しては、ISTQBのガイドライン従って実施しています。

試験モジュール	出題数	試験時間
アドバンス テストマネージャ	65問	180分
アドバンス テストアナリスト	60問	180分
アドバンス テストテクニカルアナリスト (日本での実施準備中)	45問	120分

■ 「ISTQBテスト技術者資格制度 サンプル問題 日本語版 Advanced Levelシラバス (Version 2012) テストアナリスト Version 1.01.J01」を公開しました。
ISTQBテスト技術者資格制度 サンプル問題 日本語版 Advanced Levelシラバス (Version 2012)
テストアナリスト Version 1.01.J01
http://jstqb.jp/syllabus.html#sample_download

試験についてのご連絡 (テストアナリスト試験)

■第1回開催日時 2016年2月13日(土) 10:00~13:00 (180分)

■開催地域 札幌、東京、大阪

■試験料 21,600円(税込み)

■受験資格 次の1と2の条件をすべて満たすこと

1. JSTQB認定テスト技術者資格 Foundation Level資格の合格者

2. 業務経験3年(2015年12月8日の時点)以上

業務経歴申請書を提出して頂きます。

■受験募集

・現在、申込受付中です。

・受付締切は12/8(火) 15:00迄です。

・書類提出は12/15(火) **当日消印有効**とします。

・Advanced Level 試験の書類審査は、「テストマネージャ」「テストアナリスト」共通です。

※過去にAdvanced Level試験を受験された方は、業務経歴申請書類の提出は不要です。ただし、過去に受験をされた時から苗字が変わられた方は、それを証明する身分証明書の写しを提出してください。

試験についてのご連絡

【受付に関するお問合せ】

<< Advance Levelについて >>

一般財団法人日本科学技術連盟 AL受付グループ

TEL: 03-5990-5849 / FAX: 03-3344-3022 / E-mail: al-regist@juse.or.jp

※ お電話でのお問合せ時間は、**平日の9:00~17:00**です。

【試験に関するお問合せ】

<< Foundation Level / Advance Level 共通 >>

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第二課 JSTQB資格試験担当

TEL: 03-5378-9813 / FAX: 03-5378-9842 / E-mail: juse-query@juse.or.jp

※ お電話でのお問合せ時間は、**平日の9:00~17:00**です。

質疑応答

EOF

JSTQBに関するお問い合わせ窓口
JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board)

E-mail: query@jstqb.jp

- ※1: 本アドレスで受けられるメールの最大容量は50KBとなっておりますのでご注意ください
- ※2: お問い合わせの内容によっては、検討後に回答させていただくものもあり、お時間をいただく場合があります。

FAQもあわせてご利用ください
<http://jstqb.jp/faq.html>